

平成 29 年 4 月 20 日

## 平成 28 年度 SGH 事業評価アンケート結果について

神戸大学附属中等教育学校

校長 藤田 裕嗣

昨年度末にご協力いただいた「SGH に関するアンケート」結果についてお知らせします。全般に、生徒評価結果は、学校評価と同様に、前期課程で高い傾向にあり、後期課程では「達成度」評価を中心にやや低くなっています。保護者アンケート結果は、「周知」に関する項目で低い評価がありますが、概ね高い評価結果になっています。ただし、「マイレージ制」に対しては、生徒・保護者評価とも価値判断としての否定的評価が目立ちます。「マイレージ制」の趣旨説明不足をお詫びすると共に、改善策も含め、今回あらためて説明いたします。

### 1 前期課程生評価アンケート結果 回答数 425 回収率 96%

①そう思わない, ②あまりそう思わない, ③ほぼそう思う, ④そう思う (NO. 15, 18, 20 以外)

\*数値は% 平均値は相加平均(4点満点)

評価項目	④	③	②	①	平均
<b>I Kobe インテリジェンスプロジェクト(KP)について</b>					
Q1 探究テーマを適切に見つけることができた。	31	54	13	2	3.1
Q2 適切な資料調査やフィールドワークを行うことができた。	35	52	12	1	3.2
Q3 調査内容を適切にまとめることができた。	30	56	14	1	3.1
Q4 調査内容を適切に発表することができた。	24	56	16	3	3.0
Q5 グループ間などで意見交換ができた。	38	46	13	4	3.2
Q6 学習課題に対する理解は深まった。	37	53	9	1	3.2
Q7 KPIに取り組んだことは有意義だった。	50	37	10	3	3.3
<b>II 教科の授業との関係について</b>					
Q8 特設科目「ESD」は地球的課題を学ぶ上で役立った。(3年のみ)	48	42	8	2	3.4
Q9 教科で学んだことが, KP学習に役立った。	31	42	21	7	2.9
Q10 KP学習で学んだことが, 教科学習に役立った。	25	42	26	7	2.8
Q11 KPでは日本の課題や伝統文化について学ぶ機会がある。	36	44	18	2	3.1
<b>III 英語(外国語)力について</b>					
Q12 将来, 高度な英語力(外国語)を身につける必要がある。	67	26	5	3	3.6
Q13 この1年間で, 授業以外で英語(外国語)力を身につける機会があった。	41	29	22	8	3.0
Q14 この1年間で, 英語(外国語)によるコミュニケーション能力は向上した。	37	46	17	0	3.1
<b>IV-a グローバルアクションプログラム(GAP)について</b>					
Q15 今年度GAPに参加しましたか。 ①10日以上 ②3日以上 ③参加した ④参加しなかった	13	17	17	53	1.9
Q16 GAPへの参加を評価するマイレージ制度は適切だと思う。	16	41	26	16	2.6
Q17 将来, 海外の学校との交流に参加したいと思う。	44	33	16	7	3.1
Q18 将来, 次の地域と交流したいですか。(複数回答可) ①ベトナム:ハノイ ②台湾:高雄 ③米:シアトル ④英:ケンブリッジ ⑤カンボジア ⑥カナダ ⑦参加したくない	① 22 ⑤ 17	② 25 ⑥ 62	③ 71 ⑦ 24	④ 65	
Q19 将来, 仙台など国内の学校との交流に参加したいと思う。	32	33	23	12	2.8

IV-b GAPに参加した人のみ答えてください。(複数参加した場合は、総合的に考えて答えてください)					
Q20 どういうきっかけで、参加しようと思ったのか。(複数回答可) ①深く学びたいから ②国際理解に役立つから ③進路に役立つから ④周りの勧めがあったから ⑤マイルージポイントがほしかったから	①	②	③	④	⑤
	73	82	36	47	32
Q21 参加したプログラムは、充実していた。	46	36	13	5	3.2
Q22 地球や地域の諸課題に対する理解が深まった。	31	41	20	8	3.0
Q23 国際的なコミュニケーション能力の向上に役立った。	26	37	26	10	2.8

### 【記述回答】(115 件中の一部)

- ・専門的な話が聞けて良かったです。
- ・自分が知らなかったような「今世界で何が起きているのか」について深く考え、議論することができた。
- ・(英語による講演は)日本語も入れながら説明してほしいと思いました。
- ・知らなかった「食」に関する課題をたくさん知ることができてよかったと思う。(ESD Food プロジェクト)
- ・神戸大留学生との交流で海外について理解することができ外国について考える機会となりました。
- ・神戸大学経営学部との連携授業は演習もあったのでより学びが深いものになってよかったと思いました。
- ・もっといろいろな国の学校の生徒と先生のセミナーを増やしてほしいです。(ベトナムの時みたい)
- ・先輩の GAP プログラムの発表を見ると、とても楽しそうで、魅力的なものだと思う。
- ・英語落語やフランス中学との交流, ESD Food など、英語を使える機会が多かったのが良かった。
- ・オックスブリッジでは生の英語に触れられて、なおかつとても楽しかった。英語討論会を実施してほしい。
- ・もう少し中学生も入れる活動を増やしてほしい。もっと幅広いテーマで・・・科学をもっとやってほしい。
- ・1, 2 年生の間はリーダーセミナーに参加する以外に GAP プログラムがなかったので、もっといろいろな人とのコミュニケーションをとれる活動をしたかったと思う。
- ・時期が忙しい時ばかりなので、もう少しばらつかせてほしい。1 月とか 2 月とか。
- ・経済格差によって参加できるものとないものがあるのは、おかしいと思う。マイルージ制度はよくない。
- ・部活動と重なるため、思うように参加できないので、1 日単位の講座などをもっと増やしてほしい。神戸大学の連携授業はとても興味深いので、もっと様々な学部の授業を受けてみたい。

### 【分析と小括】○○<sup>数字</sup>：右上数字は質問番号

- ①前期課程は SGH の直接対象生ではありませんが、中等教育学校の特質を生かし、前提となる取組に注力しています。課題研究の前提「KP 学習の評価」<sup>1~7</sup>(肯定的評価 80~90%)は高く、「特設科目 ESD」<sup>9</sup>も 90%が肯定的で、「探究学習と教科の相加効果」<sup>9,10</sup>についても 75%程度が肯定的です。
- ②GAP についての評価が高いですが、「マイルージ制」<sup>16</sup>については肯定が 57%にとどまっています。
- ③実施時期、内容等について、部活動参加生徒が参加しやすいプログラムや前期課程生徒対象のプログラム、幅広いテーマのセミナー開講等具体的な要望もあります。
- ④交流希望<sup>19</sup>：アジア圏(ベトナム 22%台湾 25%カンボジア 17%)と欧米圏(シアトル 71%, ケンブリッジ 65%, カナダ 62%)との間に明確な差があり、英語力向上への希望があるとはいえ、欧米志向等も反映されていると思われます。
- ⑤学年による差異：1・2 年生と 3 年生の間に一定の差異があります。(「グローバル意識調査」においても同様の差異が確認できます)。

#### 4 後期課程生評価アンケート結果 回答数 452 回収率 94%

①そう思わない, ②あまりそう思わない, ③ほぼそう思う, ④そう思う (NO. 27, 30, 32 以外)

\*数値は% 平均値は相加平均(4点満点)

評価項目	④	③	②	①	平均
<b>I SGH課題研究について</b>					
4年 Q1 テーマを適切に立て,必要な修正(絞り込み)を図ることができた。	25	51	18	5	3.0
4年 Q2 根拠となるデータの入手方法について理解できた。	27	54	15	4	3.0
4年 Q3 論文の構成や書式,引用等に関する遵守事項について理解できた。	27	51	19	4	3.0
4年 Q4 調査内容を適切に発表する多様な方法について理解できた。	16	58	20	5	2.9
4年 Q5 生徒同士で意見交換ができた	39	36	19	6	3.1
4年 Q6 研究課題に対する理解は深まった。	33	44	18	5	3.1
4年 Q7 研究入門(4KP)に取り組んだことは有意義だった。	34	36	20	10	2.9
5.6年 Q8 研究テーマを適切に立て,必要な修正(絞り込み)を図ることができた	18	50	28	4	2.8
5.6年 Q9 研究に関し,問題意識は明確だった	18	49	29	4	2.8
5.6年 Q10 研究は,社会的有用性を持つものだった	14	49	30	7	2.7
5.6年 Q11 研究にあたって,先行研究を調査した	36	42	18	4	3.1
5.6年 Q12 生徒同士で意見交換ができた	21	38	27	14	2.7
5.6年 Q13 グローバル(&ローカル)な諸課題に対する理解は深まった	16	42	32	10	2.6
5.6年 Q14 調査・実験等を通して研究の根拠となるデータを得ることができた	24	45	25	6	2.9
5.6年 Q15 研究論文は,論理的・実証的に構成できた	13	48	32	6	2.7
5.6年 Q16 研究論文の書式や引用等に関する遵守事項を守って書くことができた	26	49	21	4	3.0
6年 Q17 プレゼン(ポスター発表)では研究内容を分かりやすく伝えることができた	21	45	26	8	2.8
6年 Q18 卒業論文の英文での要約作業は,有意義だった	11	34	38	16	2.4
6年 Q19 研究に取り組んだことは,進路を考えるうえで参考になった	16	46	26	12	2.7
4年 Q20 特設科目「国際理解」は地球的課題を学ぶ上で役立った。	17	44	26	13	2.7
4.5年 Q21 教科で学んだことが,課題研究(卒業研究入門)やKP学習に役立った。	19	38	26	17	2.6
4.5年 Q22 課題研究(卒業研究入門)で学んだことが,教科学習に役立った。	18	36	31	15	2.6
4.5.6年Q23 学校では日本の課題や伝統文化について学ぶ機会がある。	27	39	24	10	2.9
<b>II 英語(外国語)力について</b>					
4.5.6年Q24 将来,高度な英語力(外国語)を身につける必要がある。	57	32	9	3	3.4
4.5.6年Q25 この1年間で,授業以外で英語(外国語)力を身につける機会があった。	31	37	22	11	2.9
4.5.6年Q26 この1年間で,英語(外国語)によるコミュニケーション能力は向上した。	25	45	23	7	2.9
<b>III-a グローバルアクションプログラム(GAP)について</b>					
4.5.6年Q27 今年度GAPに参加しましたか。 ①10日以上 ②3日以上 ③参加した ④参加しなかった	26	20	14	40	2.3
4.5.年 Q28 GAPへの参加を評価するマイルージ制度は適切だと思う。	13	32	28	26	2.3
4.5.6年Q29 将来,海外の学校との交流に参加したいと思う。	31	28	18	23	2.7
4年 Q30 将来,どの地域の学校と交流したいですか。(複数回答可) ①ベトナム:ハノイ ②台湾:高雄 ③米:シアトル ④英:ケンブリッジ ⑤カンボジア ⑥カナダ ⑦参加したくない	① 14 ⑤ 17	② 19 ⑥ 26	③ 35 ⑦ 33	④ 37	
4年 Q31 将来,仙台など国内の学校との交流に参加したいと思う。	31	28	18	23	2.7
<b>III-b GAPに参加した人のみ答えてください。(複数参加した場合は,総合的に考えて答えてください)</b>					
4.5年 Q32 どういうきっかけで,参加しようと思ったのか。(複数回答可) ①深く学びたいから ②国際理解に役立つから ③進路に役立つから ④周りの勧めがあったから ⑤マイルージポイントがほしかったから	① 32	② 30	③ 27	④ 16	⑤ 8
4.5.6年Q33 参加したプログラムは,充実していた。	47	36	11	5	3.3
4.5.6年Q34 地球や地域の諸課題に対する理解が深まった。	34	42	18	6	3.0
4.5.6年Q35 国際的なコミュニケーション能力の向上に役立った。	41	42	10	8	3.2
6年 Q36 参加によって,社会貢献(国際貢献)への意識が高まった	36	40	19	6	3.1
6年 Q37 SGHはグローバルキャリア人育成をめざす本校にとって意味がある。	37	47	11	5	3.2

6年 Q38 SGHは、私(個人)にとって意味がある。	24	46	20	11	2.8
<b>IV 将来に関して</b>					
4.5.6年Q39 将来、国際的な大学・学部に進学したい。	25	26	24	24	2.5
4.5.6年Q40 将来、海外に留学したい。	32	31	18	19	2.8
4.5.6年Q41 将来、国際的に活動する仕事につきたい。	24	32	24	20	2.6
6年 Q42 将来、社会に貢献する活動に協力したい。	35	43	17	5	3.1

### 【記述回答】(108 件中の一部)

- ・様々な考えを持った人とたちと関わりを持つことで、日本人としての誇りや、他国に対する考えが深まることが良かった点です。
- ・私は多くの GAP に参加したのでベトナムやカナダの友達や東京仙台など様々な仲間が出来て、今後活かされれると思います。
- ・桂三輝さんの落語がとても楽しかった。このような機会を増やしてほしい。
- ・GAP で英語力が格段に上がりました。同時に異文化理解もできて自分が大きく成長する機会になった。
- ・たくさんの人々とコミュニケーションをとる力がついた。また、国際問題について深く考えられるようになった。プログラムの案内が遅く、締切が迫っていることが多かったので、余裕をもって案内してほしい。
- ・海外へ行くことはとても自分にとって刺激があり感動的だった。東アジアの国(中国・韓国)との交流企画も作ってほしいです。
- ・アートマイルでほかの国の文化を知れたのはよかった。
- ・GAP の活動で行ったことを KP につなげ、目に見える形で残すことが出来た。GAP にかける時間が放課後のみで、正直あれもこれもできない。
- ・6年生にも機会をもっと与えてほしい。
- ・英語ができる人ばかりが選ばれている。結局帰国子女や英語ができる人に頼っているだけで英語ができない人は選ばれない。英語ができない人が参加しにくい。そういう人の枠を作ってほしい。
- ・特定の国の人だけでなく、不特定多数の人たちと話すことや自分の交流をひるめることができて良かった。
- ・ジオパーク研修に参加した。事後レポートなどを課されなければ行ったきりで終わってしまうと感じた。
- ・「GAP に参加すれば進学に有利になる」という噂がまことしやかにささやかれ、利に走った動機で参加する人を見ているのは気持ちいいものではない。もう少しアジア圏のプログラムがほしい。
- ・私の参加したプログラムは少人数だったので、実際に体感して学べることができました。
- ・他の学校ではなかなかできない海外や国内での他の交流ができてとても充実したプログラムだった。

### 【分析と小括】○○<sup>数字</sup>：右上数字は質問番号

後期課程は全員が SGH の対象生徒です。ただし、3 回(6 年)生は先行実施、5 年生及び 4 年生は本格実施の学年になります。生徒の意識の変容を総合的に把握・分析するための「グローバル意識調査」は、平成 26 年度の SGH アソシエイト時より実施していますが、今回は SGH 事業についてのアンケートとして実施しました。学年によって質問項目を変えたため、集計結果にやや紛らわしい点がありますが、ご容赦ください。

①「課題研究」<sup>1~19</sup>については、4 年「課題研究Ⅰ」<sup>1~7</sup>(肯定的評価 70~80%)に対し、5 年<sup>8~16</sup>・6 年<sup>8~19</sup>の「課題研究ⅡⅢ」<sup>8~19</sup>(同 58~78%)が相対的に低くなっています。論文の完成度等は明らかに高度化しているのに生徒の達成評価が低くなるのは、質問項目が難化している影響もありますが、難しい探究的課題との知的格闘の結果、自分自身により高い目標を課すようになり、メタ認知(自分の思考や行動自体を対象として客観的に把握し認識する)能力が上がったためと考察しています。

②「英文要約」<sup>18</sup>(同 45%)「国際理解」<sup>20</sup>(同 61%)が低いのは、実施 1 年目ということもありますが、原因を深く分析して改善に努める予定です。

- ③「英語高度化事業」<sup>24~26</sup>については、課題研究 GAP や各種高校生サミット等、授業外でも発表機会が増え、本校生の英語力向上につながっていると思われます。英語の学力低位の生徒にとっては、厳しい面もあり、その引き上げが課題です。
- ④「地球の安全保障」や ESD に関連するテーマは教科の授業でも多く取り上げていますが、「課題学習と教科学習の相加効果」<sup>21・22</sup>について、高い評価とはいえません(同 55%程度)。前期課程では比較的高い評価(同 76~80%)を得ていることから、原因を分析し改善に努める必要があります。
- ④GAP については、生徒の参加率は 52%(学年必修事業を除く)で、「参加者の評価」<sup>33-38</sup>は高い(同評価 74~84%)が、「マイレージ制」<sup>28</sup>肯定は 45%にとどまっています。
- ⑤「どういうきっかけで、参加しようと思ったのか。(複数回答可)」<sup>32</sup>で、「⑤マイレージポイントがほしかったから」と答えた回答は、前期が 32%あったのに対し後期は 8%と下がっています。  
マイレージ制については一部誤解もありますが、丁寧に説明(後述)します。
- ⑦「活動の案内が遅く、締切りが迫っていることが多いので、余裕をもって案内してほしい」をはじめ、案内の迅速化、広報の充実を要望する声もありました。
- ⑧「交流希望」<sup>19</sup>: アジア圏(ベトナム 14%台湾 19%カンボジア 17%)と欧米圏(シアトル 35%, ケンブリッジ 37%, カナダ 26%)との間に明確な差があり、欧米志向が反映されています。
- ⑨6 年では、SGH の諸活動を通して「貢献意識」<sup>36・42</sup>の高まりがみられます。

## 2 保護者評価アンケート結果 回答数 604 回収率 76%

①そう思わない, ②あまりそう思わない, ③ほぼそう思う, ④そう思う (NO. 12 と NO. 15 以外)

\* 数値は% 平均値は相加平均(4 点満点)

	評価項目	④	③	②	①	平均
1	課題研究(卒業研究)及び KP 学習が SGH の主要な事業であることを知っている。	43	36	10	11	3.1
2	課題研究(卒業研究)及び KP 学習は有意義だと思う。	36	50	12	2	3.2
3	子どもの課題研究(卒業研究)及び KP 学習の取組について知っている。	35	47	15	3	3.1
4	課題研究(卒業研究)及び KP 学習の取組について知る機会がある。	20	49	28	4	2.8
5	課題研究(卒業研究)及び KP 学習は、子どもの将来の進路に役立つと思う。	34	47	17	2	3.1
6	本校がユネスコスクールであることを知っている。	62	19	10	8	3.3
7	ユネスコスクールが推進する ESD(持続可能な開発のための教育)について知っている。	10	31	40	19	2.3
8	本校が課題研究を支える科目として「ESD」「国際理解」を特設していることは有意義だ。	29	49	18	3	3.0
9	この1年、子どもの英語(外国語)によるコミュニケーション能力は上達したと思う。	20	42	30	7	2.8
10	将来、子どもに高度な英語(外国語)力を身に付けてほしい。	72	25	3	0	3.7
11	SGH 事業のグローバル・アクション・プログラム(GAP)について知っている。	33	45	18	4	3.1
12	子どもは、今年度 GAP に次の日数分参加した。 ①10 日以上 ②3 日以上 ③1 日は参加した ④参加しなかった	17	29	21	32	2.3
13	GAP 参加を評価するマイレージ制度は適切だと思う。	6	40	36	18	2.3
14	本校が海外の学校と交流校協定を結んだことを知っている。	21	39	26	14	2.7
15	子どもに、次の海外研修に参加させたいと思う。(複数回答可) ①ベトナム:ハノイ ②台湾:高雄 ③米:シアトル ④英:ケンブリッジ等 ⑤カンボジア ⑥カナダ ⑦参加させたくない	①	②	③	④	
		22	21	51	56	
		⑤	⑥	⑦		
		18	57	8		
16	子どもに、国内研修に参加してほしい。	51	41	7	1	3.4

17	SGH 事業に対する神戸大学の具体的な支援内容を知っている。	4	30	48	19	2.2
18	将来、子どもに国際的な大学・学部に進学してほしい。	35	39	22	5	3.0
19	将来、子どもに海外留学してほしい。	35	39	21	5	3.0

### 【記述回答】(73 件中の一部)

- ・主に高校生対象のプログラムばかりで残念です。1 年生から参加できるものが少ないと感じます。
- ・英語力が優秀な生徒は伸びるプログラムかもしれませんがそうではない生徒へのフォローもある方が全体での取組になると思います。
- ・SGH というと、多くの学校では他国と日本の関係に視点を置いているものがよくあるが附属中等では国内にも向けられていることが興味深い。
- ・特に海外事業については対象学年以下にも具体的な情報提供を(ex 募集時期, 募集要件, 実施時期)。
- ・GAP は参加を評価する仕組みとしては有効だと思いますが、ポイント稼ぎに偏らないようご指導をお願いします。(一部の)親の間では「GAP マイレージがあると〇〇に有利」or「マイレージがないと〇〇に不利」といった憶測があり不安になることがあります。
- ・魅力的なプログラムが多く内容を見てわくわくするのですが、部活動が忙しく日程が合わずあきらめてしまう事が殆どです。
- ・グローバルなプログラムが色々あるのは子供達にとってもいい環境だと思いますが、それにマイレージポイントを付けて評価し、大学受験等に影響されるのは平等な教育ではないのではと疑問に思います。
- ・課題研究は非常に有意義だが一方で負担も大きい。字数の見直し、取組時期の前倒し、4~5 年の継続研究の推進等検討していただきたい。部活動や課外での活動に参加している場合 GAP に日程的に参加しづらい面がある。指標を別途設けるなど GAP マイレージの見直しを検討頂きたい。
- ・海外の学校との交流に中国を加えてはどうか。(日本の多くの企業が中国と関係があり文化的にも大昔から関係が深い(特に神戸)ので。
- ・修学旅行はイギリスロンドンにしてほしい。入学時にそういう約束だったはず。
- ・良い点は様々な活動を通して人間的に成長すること。また、人に対して感謝する気持ちが前よりも多くなったと感じます。今の経験が社会に出た時に活かせるので、SGH は子供たちにとって有意義だと思います。

### 【分析と小括】〇〇<sup>数字</sup>：右上数字は質問番号

- ①目的・意義について：「課題研究及び KP は有意義」<sup>2</sup>(肯定的評価 86%)、「将来の進路に役立つ」<sup>5</sup>(同 81%)「ESD・国際理解は有意義」<sup>8</sup>(同 78%)、と目的・意義については高い評価になっています。「人間的な成長」「GAP が国内を対象にしている」ことへの賛同意見も見られます。
- ②「GAP に参加させたい」<sup>15・16</sup>は国内外とも 92%が肯定的です。一方、「GAP 参加を評価するマイレージ制度」<sup>13</sup>についての評価は、肯定的 46%、否定的 54%です。「ポイント稼ぎに走る傾向」や「帰国生や英語の得意な生徒が有利な制度」「クラブに参加していると不利」「お金次第で大学に行けるのか」「GAP 公募落選者へのフォローが必要」といった批判が目立ちます。
- ③周知・広報について：「課題研究(卒業研究)が SGH の主要な事業」<sup>1</sup>(同 79%)「ユネスコスクールの認知度」<sup>6</sup>、「グローバル・アクション・プログラム(GAP)の認知度」<sup>11</sup>(同 78%)は高くなっています。反面、「ESD の理解」<sup>7</sup>(同 41%)「交流校協定締結」<sup>14</sup>(同 60%)「神戸大学の支援の具体像」<sup>17</sup>(同 34%)は低くなっています。「連絡が遅い」「子供が知らせない」等、広報・周知の課題も多いといえます。

④交流希望<sup>15</sup>：アジア圏(ベトナム 22%台湾 21%カンボジア 18%)と欧米圏(シアトル 51%, ケンブリッジ 56%, との間に明確な差があり, 英語運用力に対する要望や生活環境面への配慮を割り引いても, 欧米志向の意識を反映していると思われます。また, 記述回答ではロンドン修学旅行への要望と共に, 「中国との交流を望む」声もありました。

対象国・市	前期生		4年生		保護者	
ベトナム	22%	21%	14%	17%	22%	20%
カンボジア	17%		17%		18%	
台湾・高雄	25%		19%		21%	
シアトル	71%	64%	35%	33%	51%	55%
ケンブリッジ	65%		37%		56%	
カナダ	62%		26%		57%	
欧米/アジア		3.1		2.0		2.7

④学年による差異：一般的に高学年になるほど評価がやや下がる傾向にありますが, 生徒の差異に比べると大きくはありません。学校評価結果と同様の傾向がみられます。

### GAP マイレージ制について

GAP プログラムの内容としてはよいかもしれないが, 今年度の初めに報告を受けたときからマイレージポイント制に対して, 強く違和感を覚えている。まず「マイレージポイントがほしかったから」というアンケートの項目がある時点でこのプログラムの意図するところが私にはわからない。全員がこのような動機を持って GAP プログラムに臨んだとは言えない。しかしこのような動機で臨む人が一定量いるとすれば, それは本校が目指す多文化理解を推進するものであるのだろうか。かつ, このプログラムは海外研修に多くのマイレージポイントをかけているが, 海外に行くには多額の費用を有す。我々の学校は私学ではないので, 生徒の全家庭が富裕層というわけではないだろう。ゆえにお金でマイレージポイントを買い, 推薦を有利に進めるという事態が起こるのではなかろうか。これは明らかに一定数の不利につながると思い, 私はこのプログラム制度に違和感を感ぜずにはいられない。

上記文章は, 後期課程生徒の一人が, GAP マイレージ制を憂い, 「利己」を超えて述べた批判的意見です。こうした憂慮を与えてしまったことに対し, 学校として大いに反省すると共に, 再度, マイレージ制度について, 丁寧に説明したいと思えます。Q&A 方式で記述しますが, ご寛恕ください。なお「(GAP に), どういうきっかけで, 参加しようと思ったのか。」<sup>32</sup>で, 「⑤マイレージポイントがほしかったから」という項目をあえて入れたのは, 学校としてもこれを問題点としてとらえ, 適切な改善を講じるために, 実態を把握しようと考えたからです。

#### Q1 なぜ, GAP マイレージ制を導入したのですか。

本校では, 様々な体験プログラムを課外で用意し, 計画的参加を通して生徒が「グローバルキャリア人」としての素養を高めてくれることを目指しています。

プログラムを運営するにあたっては, (1) 自主性を最大限に尊重し, 生徒の自由意思に委ねて参加状況を記録しない方向性と, (2) 学校教育の一環として参加状況を記録し, できるだけ幅広い生徒に参加を奨励し, その「頑張り」を支援していくという2つの方向性があります。本校は, 後者(2)を基本方針として, 生徒の6年間の「体験活動の記録の仕組み」としてマイレージ制を導入しています。当初, 単位認定も検討しましたが, 条件が整わないことから見送りました。

## Q2 マイレージ制の導入によってどのような学びを目指しているのですか。

「グローバルキャリア人」をめざす本校生徒であれば、6年間を通して、「〇〇マイル以上の活動をしてほしい」というのが学校の願いです。

もちろん、全生徒にGAPの活動を押し付けるという考えはありません。本校のGAPでは、海外活動や国内活動、有償の場合や無償の場合、学術志向や体験志向の活動など多様に用意しています。それらの諸活動を自分の関心や将来の志望と照らして自由に組み合わせ、全体として一定のマイル数獲得を目指してほしいというのが学校の基本的な立場です。海外に行かずとも、費用負担がなくても、一定のマイル数に到達できるようにプログラムを構築しています。

## Q3 現在のマイレージ制の課題についてどのように考えていますか。

マイレージ制は、本来、生徒の多様な活動の記録のための仕組みであり、「自己の学びを自分でデザインする」素養を身に付けてもらうために開発したものです。

一方、外的要因として、大学入試制度が全国的に改革されつつある中で、AO・推薦入試等で特別活動・課外活動を評価する大学が増えてきたという事実もあります。こうした背景から、GAPマイレージ獲得が大学入試と短絡的に結びつき、「グローバルキャリア人の素養を高めるため」のGAPマイレージが、「推薦入試のため」とみなされるケースが生じ、さらには、高額のコストを出してでも海外研修に参加し、「マイレージを効率的に貯めることが、入試に有利」ではないか、という疑念が一部で生まれたことは、周知方法の問題も含め、学校として大きな課題ととらえています。

## Q4 課題の改善についてどのような見通しを持っていますか。

学校としては、GAPおよびマイレージ制を正しく理解していただき適切に運用できるよう、以下のような対応を考えています。

### 1) GAPおよびマイレージ制の基本理念についての広報の徹底

「何のための制度なのか」「何を目標としたものなのか」という基本理念について、教職員が認識を一致させたいと、様々な機会をとらえ、生徒に説明します。

### 2) 推薦入試とマイレージの関係についての広報の徹底

不安や誤解を与えないよう、AOや推薦入試と、教科外の各種活動（GPA参加によるマイレージ、課題研究=卒業研究、クラブ活動・生徒会活動）の評価の関係について、改めて生徒に説明します。

なお、神戸大学との高大接続研究入試の場合、全体評価を100%とした場合、学業成績が50%、課題研究及び志望動機が30%で、これら2つで評価全体の80%を占めています。その他の課外活動は、GAP、生徒会活動、クラブ活動などが20%です。GAPだけでなく、生徒会やクラブでの頑張りも、当然ながら、正しく評価されています。なお過去2年間、高大接続研究入試をはじめとする諸推薦入試の校内選考において、GAPマイレージが要因となった「逆転」は起きていません。

### 3) マイルの一部修正

GAPの個々のプログラムには、それぞれ異なるマイル数が設定されています。これらは、事前学習・当日活動・事後学習・関連学習等を含め、個々のプログラムの遂行に必要な標準的な時間数を根拠に決めています。様々な活動の中でも、研修日数が長い海外研修や、わずか2日間の大会参加であっても全日本高校模擬国連に高いマイルを設定しているのは、訪問地での滞在学習時間や事前準備学習時間



が長くなるためです。

プログラムごとのマイル数については不断に見直しを行っており、今後も、実態を正しく反映するよう調整作業を継続的にを行います。また、海外研修に参加せずとも、国内での平素の努力で一定のマイル数に到達できるよう、国内での体験プログラムのさらなる充実を図るとともに、セミナー等への参加マイルの上限の撤廃も検討しています。

#### Q5 帰国生徒や英語ができる生徒でないと不利になりますか。

海外派遣等にあたって、帰国生徒の参加率は有意に高くはありません。ただ、欧米圏を中心に英語使用国の場合、参加生徒選考にあたって英語力を重視する場合があります。ベトナム・カンボジア派遣や国内事業の多くの場合はその限りではありません。国際交流事業においては英語力が大切なことは事実ですが、欧米志向の意識とも相まって、必要以上に誤解されている面があるかと思えます。

また、選考にあたっては、プログラムの内容に応じて、参加動機と意欲、課題研究との関係性、語学（英語コミュニケーション）力、学業成績（例：欠点がある場合は、学業専念義務有）等について、書類審査及び面接を実施し、複数の教員で審査しています。

#### Q6 経済的に苦しい生徒が参加できないことについてどう考えますか。

海外研修・国内研修参加にあたって、宿泊費の自己負担をお願いしているのは、国のSGH経費の支給額が減少する中、一人でも多くの生徒を派遣したいとの思いからです。高額なプログラムもありますが、シアトル・台湾・ベトナム派遣はホームステイなのであまり経費はかかりません。

また、経済的に苦しい生徒の支援については対応が遅れました。生活保護・就学援助等、公的支援の対象家庭についてはSGH経費支援対象のプログラム参加にあたって、食費・雑費を除く経費の全額支援を検討したいと思っています。